

## 神奈川県拠点病院調査：聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター

研究分担者：太組 一朗 聖マリアンナ医科大学脳神経外科  
聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター  
研究協力者：石丸 貴子 聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター

**研究要旨**

三次医療圏内における効果的なてんかん診療の均てん化に向けた課題抽出を行うため、神奈川県てんかん拠点病院において、令和元年度、令和2年度を通じて2017年～2020年（1月～12月）の受診患者調査、長時間ビデオモニタリング件数、てんかん外科手術件数の調査を行った。またてんかん相談に関しては2018年～2020年（1月～12月）、紹介患者については2019年～2020年（1月～12月）紹介元地域、新規紹介患者紹介目的調査を行った。今回はこれまでの調査結果にり、総合的にてんかん診療拠点体制の有用性について検討を行った。

**A. 研究目的（てんかん診療拠点病院調査）**

全国にてんかん診療拠点病院を数・質ともに更に充実させるため、患者、医療機関や行政にとってのてんかん診療拠点体制のメリットを明確化する必要がある。この研究では、当センターの稼働状況、受診患者数、紹介患者状況を令和2年度も引き続き調査し、効果的なてんかん診療の均てん化にむけたてんかん診療拠点病院の運営のための基礎資料となる。

**B. 研究方法**

聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター（精神神経科・小児科・脳神経外科・脳神経内科）を受診するてんかん患者の通常診療によって得られた情報を使用し、2017年～2020年（1月～12月）における受診患者、長時間ビデオモニタリング件数、てんかん外科手術件数について調査した結果をまとめる。またてんかん相談に関しては2018年～2020年（1月～12月）、紹介患者については2019年～2020年（1月～12月）の紹介元地域、新規紹介目的調査結果をまとめ、総合的に診療拠点機関体制の有用性について検討を行う。

**（倫理面への配慮）**

本研究は診療情報の収集によって得られた情報のみを使用。同意取得はポスターで公開し患者より申し出があった場合は研究対象より除外する。本研

究は聖マリアンナ医科大学倫理委員会において承認を得ている。

**C. 研究結果**

当センター（精神神経科、小児科、脳外科、脳神経内科）外来患者数（病名で抽出・延べ人数合計）2017年16520人、2018年17126人、2019年16830人、2020年14,684人（病名で抽出・月ごと実数合計）2017年13044人、2018年13793人、2019年13800人、2020年12,225人（てんかん指導致料で抽出）2017年4500人、2018年4984人、2019年5034人、2020年4822人。入院患者数（病名で抽出）2018年365人、2019年440人、2020年426人。てんかん外科手術2017年13件、2018年39件、2019年45件、2020年43件。長時間ビデオ脳波モニタリング検査（2018年2月開始）2018年63件、2019年71件、2020年57件。てんかん相談件数（2018年4月開始）2018年59件、2019年253件、2020年190件。紹介患者数（情報提供書にて抽出）、2019年423件2020年409件。新規紹介患者（情報提供書新規のみ）2019年281件、2020年264件。てんかん相談、紹介患者紹介元地域、新規紹介患者紹介目的の内容については、表1～3に示す。

表1 2018年～2020年てんかん相談・対応内訳

相談内容	2018	2019	2020
受診相談	32	140	99
てんかんの病気・治療について	16	54	31
紹介・転院（医療機関から）	3	21	21
制度利用等福祉関係相談	0	10	8
症状への対応	2	7	5
その他	6	21	26
合計	59	253	190
<b>対応</b>	<b>2018</b>	<b>2019</b>	<b>2020</b>
情報提供等相談のみ	12	87	68
自病院受診	27	84	71
他の医療機関へつないだ	12	44	26
その他	8	38	25
合計	59	253	190

表2 2019年・2020年 患者紹介元地域詳細

医療圏	2019	2020
川崎北部	126	145
川崎南部	37	33
横浜北部	52	52
横浜西部	14	13
横浜南部	14	18
小計	243	261
横須賀・三浦	12	6
湘南東部	7	7
湘南西部	18	10
県央	18	13
相模原	12	12
県西	7	2
小計	70	50
東京都	62	61
県外（海外）	42（2）	36（1）
小計	106	98
合計	423	409

表3 2019年・2020年 新規紹介患者紹介目的

紹介目的	2019	2020
てんかん診断	143	116
薬剤調整	65	89
手術目的（外科適応評価）	29	18
転居	11	16
トランジション	0	2
その他	33	23
合計	281	264

#### D. 考察

当院は2017年10月よりてんかんセンターが稼働し、2018年4月より神奈川県のとんかん診療拠点病院として指定を受けている。2020年については新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、受診患者数、てんかん外科手術、長時間ビデオモニタリング検査等減少傾向にあったが、てんかんセンター開設以来年々実績を積み重ねている。てんかん相談について、2020年は前年よりも件数が減っているが、てんかんセンター開設2年目の2019年に関しては、顕著に相談件数が増え、拠点病院のニーズの高さがうかがえる。紹介患者についてみると、地域に関しては、川崎市、横浜市等、地理的に近い地区からの紹介が全体の6割ほどを占めている。県内のてんかん医療の均てん化は拠点病院の課題となっており、地理的に近い川崎、横浜以外の地区からの紹介患者の数は均てん化の一つの指標となる。2019年までは県内の遠隔地からの紹介件数は増加傾向にあったが、2020年は減少しており、新型コロナウイルス感染症流行の影響が考えられる。新規紹介患者の紹介目的については、てんかん診断を目的とする例が多く、特に2019年に関しては5割を占めていた。次いで、薬剤調整、手術目的（外科適応評価）転居、トランジションの順となっている。この調査結果から、てんかんは診断が難しく、専門医療機関、専門医が診察する事の重要性が明らかとなった。薬剤の調整が困難な際は、医師からの勧め、または本人の希望で専門医を訪ねる例も多くなっている。また外科手術、長時間モニタリング検査など、より高度な医療が必要とされる例も一定数見受けられる。県内のてんかん医療の均てん化の実現のためには、高度な医療を提供している拠点病院の存在を、今後もアピールしていく必要がある。

紹介元をみると、全国多数の地域から紹介を受けており、県外からの紹介の内容は、転居の例が多数

である。てんかんの治療は長期にわたる事が多く、全国各地にてんかん拠点病院が設置され、ネットワークが生かすことも重要と考えられる。

#### **E. 結論**

2017年～2020年の拠点病院調査を行い、当センターが、地域にてんかん診療の中核を担っている事が、稼働状況の調査により明らかとなっている。また、紹介患者状況等の調査結果を見ると、てんかん診療拠点病院がその地域で役割を果たすことの重要性や、全国に拠点を増やしていく事の重要性が明らかとなった。この調査は診療拠点機関体制の有用性を検討する根拠となり得る。

#### **F. 健康危険情報**

無し

#### **G. 研究発表**

##### **1. 論文発表**

無し

##### **2. 学会発表無し**

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

無し

##### **1. 特許取得**

無し

##### **2. 実用新案登録**

無し

##### **3. その他**

無し